



うどん県からはじめる 脱使い捨てプラスチックボトルの取り組み

2019年6月17日

NPO法人アーキペラゴ

森田桂治



地域の環境と公衆衛生を守り、
全道 きれいな街、高松を目指します
高松清掃事業協同組合
TEL 087-887-0670

高松市

2009年からのICC調査による香川県での ビーチクリーンアップでわかってきたこと。

1. カキ養殖用パイプ
2. ペットボトル
3. ペットボトルキャップ
4. 食品の包装、袋
5. 食品容器（プラスチック）
(破片化されたものを除く)

- ・ 河川を通じて「まち」からやってきた生活ごみが多い。
- ・ 回収促進だけでは解決しない。
- ・ レジ袋を使わない、ペットボトル飲料を買わないなど、生活インパクト少ない取り組みから実践し、ライフスタイル転換することが重要。



企業ノベルティなどに
マイボトルを導入してもらい、
マイボトルを
持ち歩くことをかっこいいと
思ってもらおう。

→ 特に夏場。昼ごろに
水切れがおきる











**お昼のタイミングでお腹も満タン。
マイボトルも満タン。**

読売新聞 朝刊 2018年10月11日(木) 掲載

2018年(平成30年)10月11日(木曜日) 高松市

水筒持参 水・お湯無料提供

広がるマイボトルOK

高松市の特定非営利活動(NPO)法人「アーキペラゴ」が、水筒などの「マイボトル」を持参した人に水とお湯を無料提供する店を募り、賛同店を掲載したマップをホームページ(日経)で公開している。海洋汚染の原因となるプラスチックの排出量を減らすための取り組みで、賛同店が増えている。(黒川絵理)

同法人は2009年に設立され、県内の海岸の清掃活動や、県内の調査などに取り組んでいる。その中で、マイボトルが特に目立ち、副理事長の森田桂治さん(48)は「(ゴミ)が出ない仕組み作りが必要」とマイボトルの利用促進を企画した。利用者からは「マイボトル分の飲み終わった後、結局ペットボトル飲料を買い足す」「補給できる場所があれば使いやすい」などの声が上がっており、着目したのがセルフうどん店だった。「水の無料提供に応じてもらえるのでは」と、まずは高松市内で賛同店を募集し、チラシやステッカーを提供。5月に約10店を載せた「オアシスマップ」をHPで公開した。

賛同店第1号となった高松市郷東町の「手打ちうどん ひさ枝」店主、久枝了さん(48)は「以前から、市民ランナーや哺乳瓶を持った親子連れに『お水頂けませんか』と聞かれることはよくあった。手軽に環境保全にも貢献でき、店のPRにもなる」と話す。

賛同店からは「マイボトルが浸透している外国人観光客に『サイクリング客に寄ってほしい』という声も上がった」と森田が語る。さぬき市や綾川、琴平町のカフェなどからも協力の申し出があった。環境に配慮している企業や花店などの参加も相次ぎ、計約30店に拡大したという。

今年度中に賛同店を200店に増やすことが目標で、今後、英語を併記したステッカーや、ランナー、サイクリスト向けのマップの作成を企画している。森田さんは「マイボトルを持参する生活スタイルが浸透してほしい」と話す。

マップの確認や協力の申し出はアーキペラゴのウェブサイト「せとちりーんアップフォーラム」の日P(<http://www.setochi-ri-anglo.or.jp/setochi-upforum>)。

NPO、店舗マップ 廃プラ減らす取り組み

海底ごみ720万個 県推計

廃プラスチックによる海洋汚染では、特に紫外線や波などによって5ミリ以下になった「マイクロプラスチック」の悪影響が世界的に問題となっている。県によると、瀬戸の海底に堆積するごみは計1000トン、720万個と推計され、個数換算で約8割がプラスチックごみという。海底ごみは処理責任が明確でなく、全国的に対策が遅れている。県は「多くは生活ごみで、県全域で処理することが必要」として2013年度、沿岸部だけでなく、内陸部の県内全市町と県が費用を負担して回収するシス

高松市屋島町の「長崎の鼻」に漂着したごみ。ペットボトルが目立つ(NPO法人アーキペラゴ提供)



うどん県からはじめる脱使い捨てプラスチックボトルの取り組み

オアシスマップ <http://www.archipelago.or.jp/scf/oasismap/detail/>

オアシスマップやお湯を補給できるスポットは42カ所（2019年5月）



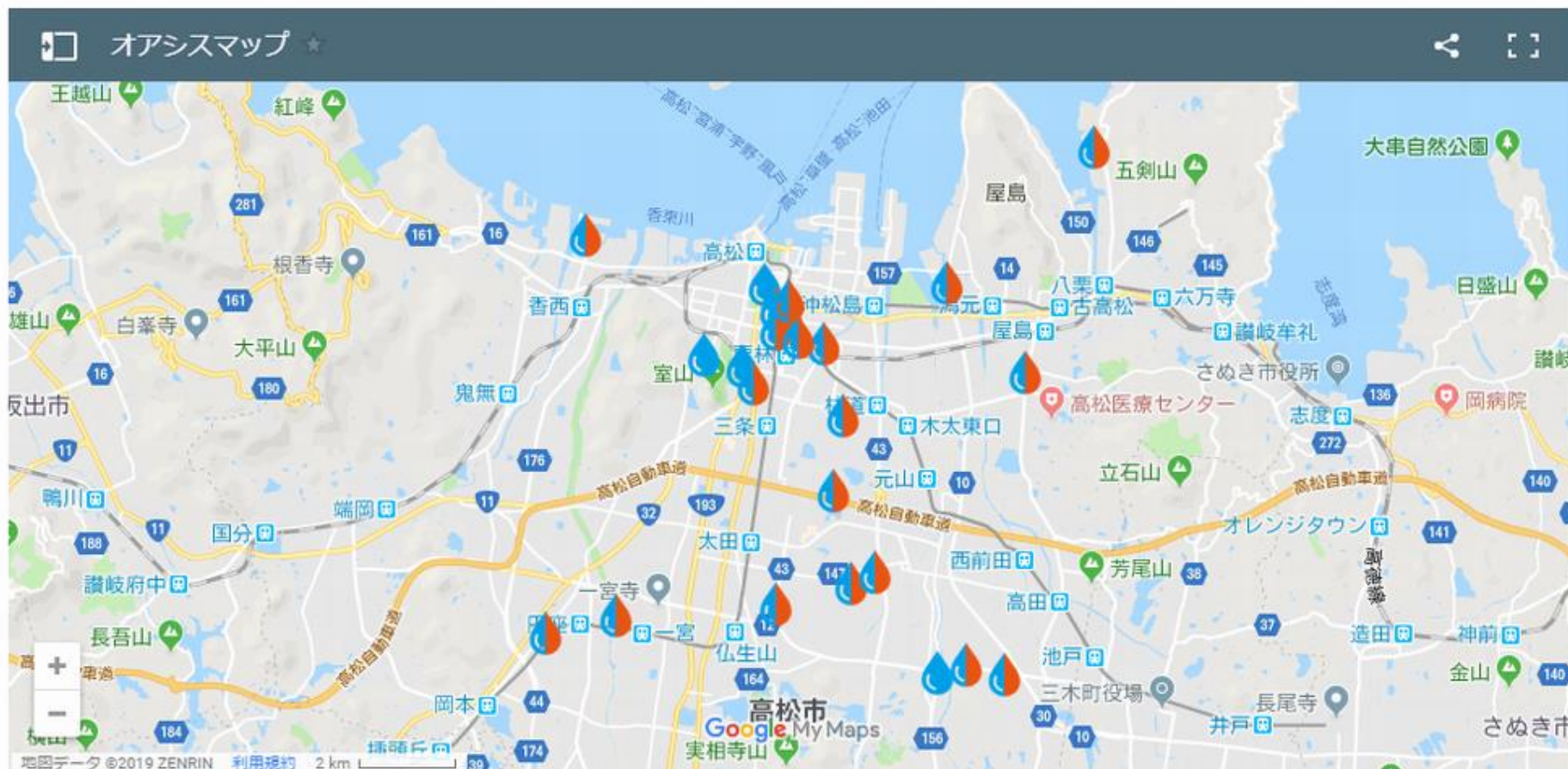
・・・ お店などで水補給



・・・ お店などで水・お湯補給



・・・ 公共の水飲み場（公園や図書館など）



うどん県からはじめる脱使い捨てプラスチックボトルの取り組み

ステッカー

ポスター



うどん県からはじめる脱使い捨てプラスチックボトルの取り組み

オアシススポットの事例



うどん店「ひさぎ」



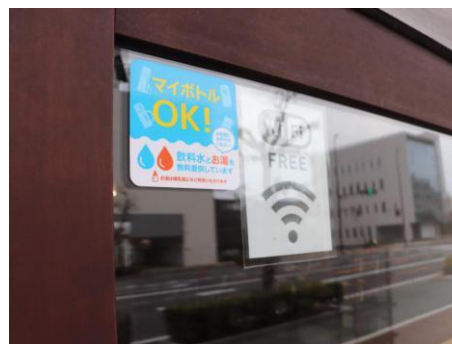
入り口のステッカーでアピール



既存の給水器でマイボトルに補給



ゲストハウス&カフェ「Kinco.」



入り口のステッカーでアピール



カフェのスタッフが汲んでくれる

うどん県からはじめる脱使い捨てプラスチックボトルの取り組み

2017年～2019年の海ごみ調査・クリーンアップの様子

2019年2月11日 瀬戸内海国立公園 屋島「長崎の



清掃前



清掃後



集まった90袋のごみうち、50袋はペットボトル

うどん県からはじめる脱使い捨てプラスチックボトルの取り組み

2017年～2019年の海ごみ調査・クリーンアップの様子

ICC調査に基づく香川県の海ごみの実態



ICC調査：国際海岸クリーンアップ。世界共通のデータカードを使用し、品目別個数を調査する方法。

海ごみのお話、ビーチコーミングで楽しむ海のお宝紹介



クリーンアップの後は、地元食材を使って地元の人が料理した「里海ランチ」



うどん県からはじめる脱使い捨てプラスチックボトルの取り組み

2017年～2019年の海ごみ調査・クリーンアップの場所

第3回 浦島（積）
2017年12月3日
（日）



第5回 つたじま
2018年5月27日
（日）



第4回 小豆島
2018年3月24日
（土）



第2回 男木島
2017年9月23日
（土）



第7回 中津海岸
2018年12月2日
（日）



第8回 屋島
2019年2月11日（祝・月）



第6回 津田
2018年10月28日
（日）



第1回 田の浦
2017年5月27日（日）

